

S43 年卒 渡辺五郎さん 四国・中国遠征報告 -OB会HP会員のひろばより抜粋-

【864】 剣山 (1955M) 渡辺五郎 - 18/11/4(日) 16:58 -

10月29日 曇り後快晴

四国中国遠征の第一座目は徳島県の剣山。前日は巨大な明石海峡大橋を渡り淡路島、そして大鳴門橋を通過し徳島市から登山口の見ノ越 (1410M) に向かうが国道 438 号線が狭いので慎重に車を走らせる。

見ノ越で 2 回目の車中泊となる。ここは登山リフトがあるが、運行開始が 9 時からで遅すぎ、山屋の私としては使わない。

7 時前に発ち 1 時間でリフトの上駅、西島駅着。ここからは歩きやすく登山道のステップはコンクリートも用いてありリフトを使った人には軽いハイキング気分である。登るのだから。

山頂直下の「剣山頂上ヒュッテ」の寒暖計は 2.5℃、そこから立派な木道で山頂に立つ。ガスの中、風があり寒く、楽しみなアマチュア無線の開局であるが記録を取るのにペンを持つ手が冷たくて苦戦。暫くすると雲が取れて快晴状態となる。太陽の暖かさはありがたい。

山を下りて高知市近くの海岸の道の駅に向かう途中にかずら橋を見学、お金を出すと渡れるが、怖い思いをするのに金を出す必要は無いので周りからしっかりと観察、国道 439 号線も有名な狭い道、通り抜けて国道 32 号線に出たらホットした。

【866】 百名山 91 座目 大山 (1709.4M) 渡辺五郎 - 18/11/6(火) 18:35 -

11月2日 曇り

昨日は四国の今治からしまなみ街道を渡り、松江から米子そして大山登山口の大山寺駐車場で車中泊。楽しみな一人宴会、スーパーで買ったおつまみとビールを楽しみ、コンビニで温めてもらった弁当で充分。助手席を平らにすればすぐに眠れる。

登りは夏山登山道を 7 時発。2 時間 40 分で山頂着。昨日は大山初冠雪とラジオで聞いたが、木道の陰にその名残で少し残っている。

遠征最後の 3 座目はガスの中で寒い。山頂で暫く過ごし避難小屋に寄ったら皆暖かい飲み物を飲んでいる。カップ麺が 500 円、我慢して下り始める。

途中の分岐で元谷に向かう行者登山道に、西日本で一番と言われるブナ林が見事であった。

「行ける範囲の百名山」、あと 9 座。残りの山はますます遠くなる。来夏は 70 歳、続けて行けるだろうか？ 四国中国遠征は車の走行距離が 2651.9km となった。

山行の間に観光と学習、明石海峡大橋、高知の坂本竜馬、牧野植物園と島根県安来市の和鋼博物館を回ることが出来た。

【869】 三条とタタラ製鉄 渡辺五郎 - 18/11/7(水) 20:14 -

先週の四国と中国遠征、目指す山々の移動の間に学習と観光を楽しんだ。

ノンフィクションライターの山根一真氏の著書で日本の『スゴイ物づくり』を紹介している「メタルカラー烈伝」シリーズで最近読んだ本が、「メタルカラー烈伝、鉄」であり、安来の「たたら製鉄」の歴史が紹介されていた。

山行移動のルート上の島根県安来市に著書に紹介されていた、「和鋼博物館」がありそこを訪ねることが出来た。

物作りが生業の私は工作機械の刃物でヤスキ鋼をブランド名とする日立金属の安来工場を知っている。この工場は明治になり洋鉄に圧されたたたら鋼の主要な経営者がルーツの会社である。

館内に入るとタタラの模型とケラと呼ぶ、たたら炉で出来た鉄塊や玉鋼の展示を見て砂鉄と炭を原料として一度に鋼を作る技（現代の製鉄は高炉で銑鉄を作りその後転炉で炭素量を減らし鋼にする）を学習。

館内を歩くと「三条と安来のたたら製鉄」のコーナーがあった。

江戸時代の後半に北前船の航行が盛んになり、たたらで作られた鉄や鋼が日本海そして信濃川を遡り五十嵐川、そこに三条があり、五十嵐川の右岸と信濃川の右岸の地域に鍛冶屋やそれを商う問屋が数多くあったと紹介されていた。

※そして「三条ではいまだに確かな技術と伝承で優れた金物を作り続けている」と記されていた。旧三条工業高校を卒業した私としては、何か誇りを感じつつ、和鋼博物館を後にした。

S43 年 工業 3 回生